

Q. 爪白癬の治療薬の使い分けについて教えてください

A. 爪白癬は白癬菌が爪に感染する疾患です。日本人では10人に1人が罹患しているといわれています。

爪白癬の治療薬には、抗真菌薬の内服薬と外用薬があります。基本的には、内服薬での治療が行われますが、肝機能障害や併用禁忌薬を服用中などの理由で内服薬を使用できない場合は、外用薬を使用します。従来、爪白癬に対する外用療法は効果の乏しいものでしたが、近年、爪白癬に有効な外用薬(クレナフィン爪外用液、ルコナック爪外用液)が開発され、外用療法の選択肢が拡大しました。以下に各薬剤について紹介します。

爪白癬の症状

- ・爪が白や黄色に濁った状態になる
- ・爪が厚みを増し、変形する
- ・爪がもろくなり、崩れやすくなる
- ・変形した爪により、靴を履いた時に痛みを生じる

◆爪白癬に適応がある薬剤

薬剤	用法・用量	特徴
<内服薬>		
ラミシール錠125mg (田辺三菱製薬) 成分：テルビナフィン	成人にはテルビナフィンとして125mgを1日1回食後に経口投与する。なお、年齢、症状により適宜増減する。	<ul style="list-style-type: none"> ・爪白癬に対する治療効果はイトリゾールより高いとされる。 ・併用禁忌薬はないが、肝機能障害や血球減少の副作用があり、定期的に血液検査をする必要がある。 ・治療期間は6ヵ月を目途に服用する。
イトリゾールカプセル50 (ヤンセンファーマ) 成分：イトラコナゾール	(パルス療法) 成人にはイトラコナゾールとして1回200mgを1日2回(1日量400mg)食直後に1週間経口投与し、その後3週間休薬する。これを1サイクルとし、3サイクル繰り返す。なお、必要に応じ適宜減量する。	<ul style="list-style-type: none"> ・治療期間はラミシールより短い。(服薬は2ヵ月と1週間の時点で完了) ・併用禁忌薬、併用注意薬が多いため、注意が必要。
ネイリンカプセル100mg (佐藤製薬) 成分：ホスラブコナゾール L-リシンエタノール付加物	成人には1日1回1カプセル(ラブコナゾールとして100mg)を12週間経口投与する。	<ul style="list-style-type: none"> ・治療期間は3ヵ月。 ・併用禁忌薬はないが、併用注意薬としてCYP3A4により主に代謝される薬剤(シンバスタチン、ミダゾラム)、ワルファリンがある。 ・食事に関係なく服用できる。
<外用薬>		
クレナフィン爪外用液10% (科研製薬) 成分：エフィナコナゾール	1日1回罹患爪全体に塗布する。	<ul style="list-style-type: none"> ・直接鏡検又は培養等に基づき爪白癬であると確定診断された患者に使用する。 ・容器に刷毛(はけ)が付いているため、爪に塗りやすい。
ルコナック爪外用液10% (佐藤製薬) 成分：ルリコナゾール	1日1回罹患爪全体に塗布する。	<ul style="list-style-type: none"> ・直接鏡検又は培養等に基づき爪白癬であると確定診断された患者に使用する。 ・成分のルリコナゾールは、抗真菌作用が強い。 ・容器の先端を爪に押し当て、薬液を塗る。

[参考文献]

- 1) 爪ネット:田辺三菱製薬/サンファーマ 2) 今日の治療指針 2018年版 P1255, 2018 3) 各社添付文書
- 4) 薬局ですぐに役立つ薬の比較と使い分け100 P204、213, 2017

[DI-189]

スズケン医療情報室(SDIC東京)作成

詳細については参考文献等で確認をお願い致します。